

1220



第三號

<p>主務局長 聯 大正六年八月十日</p>	<p>裁 主務局長</p>	<p>決 參事官</p>	<p>大臣 次官</p>	<p>受番 受番 三十四 部 廳名 各課本部</p>
<p>大正六年八月十日 大正六年八月十日</p>	<p>主務課長</p>	<p>高級副官</p>	<p>主務副官</p>	<p>支那軍將編制、獨立守備隊編成及交代要領、支那駐屯軍編成及交代要領、北支那派遣步兵大隊及支那形派遣隊編成、交代要領、中改、丙ノ件</p>
<p>主務課員</p>	<p>主務課員</p>	<p>主計</p>	<p>主計</p>	<p>支那軍將編制、獨立守備隊編成及交代要領、支那駐屯軍編成及交代要領、北支那派遣步兵大隊及支那形派遣隊編成、交代要領、中改、丙ノ件</p>
<p>審案 審案 審案</p>	<p>審案</p>	<p>審案</p>	<p>審案</p>	<p>審案</p>

參謀總長（岡答案）（陸密辦）

八月十五日付參密第 七〇八号ニシテ以テ照會相  
成候陸軍平時編制、獨立守備隊編成替及交代  
要領、支那駐屯軍編成及交代要領、北支那派遣歩  
兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領中政西ノ付  
異存無之候也

八月二十日

教育總監（岡答案）

八月十一日付 教密第 二八号ニシテ以テ照會去  
成候陸軍平時編制中政西ノ付異存無之候也

陸軍省 陸軍部 第一八〇號

陸軍平時編制中改定ノ件

大臣參謀總長、教育總監連署上奏榮

陸軍平時編制中別紙ノ通改定セラレ度理由書ヲ具シ謹テ奉仰 允裁候

八月二十七日  
九月二十八日

右 上奏ト同時

陸軍平時編制中改定方施行ノ件

上 奏 榮

陸軍平時編制中改定ノ件 允裁相成候ニ就テハ

陸軍省 陸軍部



別紙軍令案ノ通之ヲ施行シ命セラレ度謹テ奏ス  
(別紙)

軍令案

朕陸軍平時編制ヲ改定シ之ヲ施行シ命ス

御名 御璽

大正六年八月 日

陸軍大臣

軍令陸乙第

第七號

八月廿七日

陸軍大臣

陸軍平時編制中左ノ通改正ス

(以下別紙ノ通)

參謀總長及教育總監へ通牒案

上席ハ 二十七日  
可ハ 八月二十七日

曩、連署ヲ以テ上奏致候陸軍平時編制中  
改定ノ件別紙ノ通 允裁相成候條及通牒候也  
追テ別紙ニ用濟返却相成度候

各謀本部ヨリ 允裁濟通牒アリタル後

獨立守備隊編成替及交代要領、支那駐屯軍  
編成及交代要領、北支形派遣歩兵大隊及中支  
形派遣隊編成交代要領中改定方施行ノ件

上奏案

獨立守備隊編成替及交代要領、支那駐屯軍  
編成及交代要領、北支形派遣歩兵大隊及中支

陸軍省  
第二〇四  
號  
九月十四日

形派遣隊編成交代要領中改定ノ件、先裁相成  
候ニ付テハ別紙軍令案ノ通之ヲ施行ヲ命セ  
ラレ度謹テ奏ス

(別紙)

軍令案

朕獨立守備隊編成替及交代要領ノ改定シ之カ  
施行ヲ命ス

御名 御璽

大正六年 月 日

陸軍大臣

軍令陸乙第

九

軍令陸乙第九號

八月廿八日

獨立守備隊編成替及交代要領中左ノ通改正ス

上院 八月二十七日  
裁可 八月二十八日

(以下別紙ノ通)

(別紙)

軍令案

朕支那駐屯軍編成及交代要領ヲ改定シ之カ  
施行シ命ス

御名 御璽

大正六年 月 日

陸軍大臣

軍令陸乙第

第

軍令陸乙第十號

八月廿日

支那駐屯軍編成及交代要領中左ノ通改正ス

(以下別紙ノ通)

0220

(別紙)

軍令案

朕北支那派遣歩兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名 御 爾玉

大正六年 月 日

陸軍大臣

軍令陸乙第

號

陸乙第十一號

八百廿百

御印

北支那派遣歩兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領中左ノ通改正ス

(以下別紙ノ通)

150



## 平時編制改正理由書

- 一、各隊ニ准尉ヲ設ケタルハ准尉制度制定ニ伴ヒ之カ配屬部隊ヲ規定スルノ必要ヲ認メタルニ由ル
- 二、歩兵聯隊ニ機關銃隊ヲ新設スタルハ戰時ノ要求ニ基キ聯隊内ニ該隊ノ常設ヲ必要ト認メタルニ由ル
- 三、山砲兵大隊ヲ聯隊ニ改編スルハ現在ニ於ケル山砲兵隊得員増加ノ必要ヲ認メタルニ由ル
- 四、新ニ航空第二大隊ヲ設置スルハ航空機ノ價值及用途著シク増大シ之カ擴張ノ必要ヲ認メタルニ由ル

五、朝鮮ニ兵器製造所ヲ新設スルハ陸軍所要兵器ノ製造修理ヲ軍事上ノ要求ニ適應セシムル必要アルニ由ル

六、騎兵學校教導隊ヲ二中隊編制トシテハ騎兵ノ教練ヲ實施スル爲其ノ編制ヲ擴張スルノ必要ヲ認メタルニ由ル

又下士學生ヲ廢止スルハ從來ノ實驗上下士ノ教育ハ之ヲ各隊ニ一任スルヲ有利ナリト認メタルニ由ル

陸軍平時編制中左ノ通改正ス  
 第四條及第五條中山砲兵ノ「大隊」ハ之ヲ「聯隊」ニ改ム  
 第八條中「附表第十九號」ヲ「附表第十九號其一」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ  
 航空大隊ハ第一第二ノ番號ヲ附ス  
 第十條中第一行ノ「野砲兵」ノ次ニ「山砲兵」ヲ加ヘ第二行ノ「山砲兵」ヲ削ル又末行ノ割註中「航空大隊」ヲ「航空第一大隊」ニ改ム  
 第十四條及第二十九條中「陸軍騎兵實施學校」ヲ「陸軍騎兵學校」ニ改ム  
 附表第二號其二ヲ別表ノ如ク改ム  
 附表第三號其中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

中	少	准
尉	尉	尉
聯隊	旗學	
一	一	
四		
四		
八		
二		
四二		





(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ十一名以内トス

附表第四號其三ヲ別表ノ如ク改ム

附表第五號ヲ別表ノ如ク改ム

附表第六號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一

項ヲ加フ

中尉	三	三	四	四	一五	一五
少尉						
准尉						

(九) 准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス

附表第七號其一中 中尉、少尉ノ行及備考(八)ヲ左ノ如ク改メ

且在記備考(七)

備考(七) 准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス  
 備考(八) 中尉、少尉ノ行及備考(八)ヲ左ノ如ク改メ  
 備考(九) 准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス  
 備考(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ十一名以内トス

(八) 本表ノ外當分ノ内各兵科ノ中佐、中(少)佐、少佐(大尉)各一名、乘馬三頭、各兵科ノ大尉四名、大(中)尉一名、中(少)尉四名、輜重兵科ノ特務曹長一名、下士十四名並(二)(三)等主計、計手、二(三)等軍醫、看護長、

七	二	二
---	---	---

一一 佐 員



砲兵上等工長、一(二)等木工長各一名、一(二)等鍛工長二名、技師、技手各一名ヲ増加配屬スルコトヲ得(九)  
 准尉ハ大隊ヲ通シ九名以内トス  
 附表第七號其二中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左  
 ノ一項ヲ加フ

准	少	中
尉	尉	尉
		副
		一
		一
七		
七		
		二
		二

(九) 准尉ハ大隊ヲ通シ九名以内トス

附表第七號其三中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考(五)ヲ  
 削除シ(六)以下番號ヲ順次繰上ケ且左記備考(八)ヲ加フ

准	少	中
尉	尉	尉
		副
		一
		一
八		
八		
		一六
		一六

(八) 准尉ハ大隊ヲ通シ六名以内トス

附表第七號其四中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考(五)ヲ  
 削除シ(六)以下番號ヲ順次繰上ケ且左記備考(十)ヲ加フ





(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ九名以内トス

附表第十三號其二中  
 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ  
 左ノ一項ヲ加フ

中尉	少尉	准尉
副官	副官	副官
一	一	一
一	一	一
一	一	一
五	五	五
五	五	五
二	二	二
二	二	二
一六	一六	一
一	一	一
三八	三八	二
二	二	二

(十一) 准尉ハ聯隊ヲ通シ十二名以内トス

附表第十三號其三中  
 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ  
 左ノ一項ヲ加フ

中尉	少尉	准尉
副官	副官	副官
一	一	一
一	一	一
一	一	一
五	五	五
五	五	五
五	五	五
一六	一六	一
一	一	一
三三	三三	二
二	二	二

(十二) 准尉ハ聯隊ヲ通シ十一名以内トス

附表第十四號中  
 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ  
 一項ヲ加フ





鍛工卒少クモ三名、發動機工卒少クモ六名、電機工卒少クモ二名、寫真工、銃工卒少クモ各一名、一(二)等卒ノ内縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス (九准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス)	附表第十九號其二ヲ別表ノ如ク定ム 附表第二十一號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ	中尉 一	少尉 一	准尉 四
		(四准尉ハ大隊ヲ通シ四名以内トス)	附表第二十四號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ	中尉 一
(六准尉ハ二名以内トス)				

附表第二十九號中本廠ノ行中佐、少佐同相當官、乘馬ノ欄

中佐	少佐同	乘馬
相當官		
廠員	檢査官	附
工兵	工兵	歩兵
二	二	二

中佐	乘馬	少佐同	乘馬
相當官			
廠員	檢査官	附	
工兵	工兵	歩兵	歩兵
二	二	二	二

ヲ

ニ改ム

附表第三十號ヲ別表ノ如ク改ム

附表第四十號備考(一)中「六名」ヲ「七名」ニ改ム

附表第四十三號中上等看護卒、一等看護卒、二等看護卒ノ欄、東

京第一ノ行 

二九	七四	四五
----	----	----

 ヲ 

二九	七三	四四
----	----	----

 ニ、東京第二ノ行 

七	一八	三五
---	----	----

 ヲ

六一	七三	三三
----	----	----

 ニ、仙臺ノ行 

九	二五	六〇
---	----	----

 ヲ 

九	二六	六一
---	----	----

 ニ、岡山ノ行 

五	一五	二八
---	----	----

 ヲ

ヲ 

五	一六	二九
---	----	----

 ニ、久留米ノ行 

七	二二	六一
---	----	----

 ヲ 

七	二三	六二
---	----	----

 ニ、習志野ノ行

四	一一	二二
---	----	----

 ヲ 

六	一三	二四
---	----	----

 ニ改ム



附表第七十八號中幕僚參謀部ノ行

參謀	一	二	參謀	一	二
			參謀	二	二

ヲ

參謀	一	二	參謀	一	二
參謀	一	二	參謀	二	二

ニ改メ計ノ行「二五」ヲ「二六」

ニ、「一六」ヲ「一八」ニ改ム

附 則

步兵聯隊機關銃隊、航空第二大隊ノ新設及野砲兵第十八聯隊、山砲兵大隊陸軍騎兵實施學校ノ編制改正ノ實施ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

衛戍病院ノ編制改正中仙臺、名古屋、岡山、久留米ニ在リテハ大正六年十二月ヨリ之ヲ實施ス但シ人員ノ關係上其ノ一部ヲ缺キ漸次補充スルコトヲ得又衛戍病院編制改正ノ爲大正六年十二月増加徵集ヲ要スル現役兵ハ同年徵集補充兵ヨリ之ヲ繰上ケ徵集ス





步兵一聯隊編制表

階級	區分	聯隊本部		大隊本部		一中隊		機關銃隊		聯隊(三大隊+三中隊)計	
		人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	馬匹
大佐	大佐	1	2							1	2
中佐	中佐	1	2							1	2
少佐	少佐	1	2							1	2
大尉	大尉	1	2							1	2
中尉	中尉	1	2							1	2
少尉	少尉	1	2							1	2
准尉	准尉	1	2							1	2
特務曹長	特務曹長	1	2							1	2
曹長	曹長	1	2							1	2
軍曹	軍曹	1	2							1	2
伍長	伍長	1	2							1	2
上等兵	上等兵	1	2							1	2
一等卒	一等卒	1	2							1	2
二等卒	二等卒	1	2							1	2
計	計	13	22	7	3	14	5	13	1	19	28
一等主計	一等主計										
二(三)等主計	二(三)等主計										
計	計										
縫工長	縫工長	1								1	
靴工長	靴工長	1								1	
三等軍醫	三等軍醫	1								1	
一等軍醫	一等軍醫										
二(三)等軍醫	二(三)等軍醫										
看護長	看護長										
上等看護卒	上等看護卒										
銃工長	銃工長	3								3	
計	計	6	1	5	3	1	1	1	1	3	1
合計	合計	19	22	13	3	14	5	13	1	19	28

0295 0296

考 備

(一)大隊本部軍曹ノ内ハ武器掛、二ハ書記、一ハ炊事掛ノ分課トス(二)中隊上等兵ノ内三ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手四名、一(二)等卒ノ内銃工卒少クモ一名、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)機關銃隊上等兵ノ内三ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手二名、一(二)等卒ノ内銃工卒少クモ三名、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(四)聯隊中某一個大隊本部ニハ一等軍醫ヲ置カス聯隊本部ノ三等軍醫正其ノ大隊ノ衛生事務ヲ兼ヌ(五)機關銃隊ノ經理、衛生事務ハ某大隊附主計及軍醫之ヲ擔任ス(六)兵器支廠ヲ置カサル地ノ聯隊ニハ本表定員ノ外聯隊本部ニ銃工長一名ヲ増加ス但シ九龍屯在ノ聯隊ヲ除ク七機關銃隊新設邊聯隊本部ニ大尉一名、機關銃掛曹長一名ヲ増加シ中隊兵卒ノ定員ヲ上等兵十六名、一等卒四十二名、二等卒八十二名トス此ノ外内地ニ在リテハ師團司令部所在地外ノ各聯隊、朝鮮ニ在リテハ各聯隊ニ機關銃特業者教育ノ爲駄馬六頭ヲ増加ス(八)本表定員ノ外毎年士官候補生約四名入隊ス(九)本表定員ノ外毎年主計候補生若干名入隊セシムルコトヲ得(十)聯隊本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(十一)中隊及機關銃隊軍曹、伍長ノ定員ハ全部ヲ通シ軍曹六十六名、伍長三十九名トス(十二)第二年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ區分ニ依ラス特ニ之ヲ一等卒ト爲スコトヲ得(十三)聯隊附少佐(少)佐ハ各聯隊ヲ通シ六十八名ヲ中佐、十六名ヲ少佐トス(十四)聯隊附少佐(大尉)ハ各聯隊ヲ通シ三十八名ヲ少佐、二百二十四名ヲ大尉トス聯隊附少佐(大尉)大尉ナルトキハ乘馬セシメス(十五)准尉ハ聯隊ヲ通シ二十四名以内トス



野砲兵第十八聯隊編制表

階級	區分	聯隊本部		大隊本部		野砲一中隊		騎砲一中隊		聯隊三大隊(騎砲)總計	
		人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	馬匹
大(中)佐	聯隊長	1	2							1	2
中佐		1	2							1	2
少佐	武器主任	1	2	大隊長	1					1	2
中尉	副官	2	3	副官	1					2	3
少尉						中隊長	1			1	2
大尉								中隊長	1	1	2
中尉											
少尉											
准尉											
特務曹長											
曹長	火工掛	3	1								
軍曹	副隊長	1	1								
伍長											
上等兵											
一等卒											
二等卒											
計		15	14	3	4	13	17	13	15	96	103
一等主計		1								1	
二(三)等主計		2								2	
計											
縫工長		1								1	
靴工長		1								1	
一等軍醫		1								1	
二(三)等軍醫		2								2	
看護長		1								1	
上等看護卒										8	
一等獸醫		1								1	
二(三)等獸醫		2								2	
上等工長		1								1	
鞍工長		2								2	
木工長		2								2	
鍛工長		2								2	
蹄鐵工長		4								4	
計		26				1		1		34	
合計		41	44	3	4	12	17	13	15	96	103

考 備

(一)聯隊本部軍曹ノ内二ハ書記、一ハ炊事掛ノ分課トス(二)野砲及騎砲中隊上等兵ノ内四ハ伍長勤務トシ野砲中隊兵卒ノ内少クモ五名、騎砲中隊兵卒ノ内少クモ六名ノ蹄鐵工卒及各中隊兵卒ノ内喇叭手三名ヲ含有シ又各中隊(二)等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)ハ書記、(ロ)ハ喇叭手ノ乗用トス(四)本表定員ノ外毎年士官候補生約三名入隊ス(五)聯隊本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(六)中隊軍曹、伍長ノ定員ハ野砲六中隊、騎砲二中隊ヲ合シ軍曹三十二名、伍長十六名トス(七)第二(三)年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ區分ニ依ラス特ニ之ヲ一等卒ト爲スコトヲ得(八)准尉ハ聯隊ヲ通シ十四名以内トス

0297 8620



山砲兵一聯隊編制表

階級	職別	聯隊本部		大隊本部		中隊		聯隊(四大隊)計	
		人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	馬匹
大佐	聯隊長	1	2					1	2
中佐								1	2
少佐	大隊長		2	1				2	2
中尉	副官	1	3	1				3	3
少尉	武器主管		1			1		5	5
中尉	副官				1			3	3
少尉						4		18	18
准尉						4		4	4
特務曹長						1		4	4
曹長	火工掛	2				1		40	5
軍曹	出隊長	1	3(イ) 2	1		7		40	
伍長			1			14		56	
上等兵						35(イ) 1		140	192
一等卒						70		280	
二等卒									
計	一等主計	1						550	1335
計	手	2						47	
計	縫工長	1						1	
計	靴工長	1						1	
計	一等軍醫	1						1	
計	二(三)等軍醫	1						1	
計	看護長	1						1	
計	上等看護卒					1		4	
計	一(二)等獸醫	1						1	
計	蹄鐵工長	2						2	
計	上等工長	1						1	
計	鞍工長	1						1	
計	木工長	1						1	
計	鍛工長	1						1	
計	計	15						19	
合計	計	27	22	3	4	134	7	47	569
合計	計	27	22	3	4	134	7	47	569

備考  
 (一)聯隊本部軍曹ノ内ニハ書記、一ハ炊事掛ノ分隊トス(二)中隊上等兵ノ内四ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手三名、蹄鐵工卒少クモ五名、一(二)等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)イハ書記、(ロ)ハ喇叭手ノ乗用トス(四)本表定員ノ外毎年士官候補生約二名入隊ス(五)聯隊本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(六)中隊軍曹、伍長ノ定員ハ四中隊ヲ合シ軍曹二十名、伍長八名トス(七)第二年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ區分ニ依ラス特ニ之ヲ一等卒ト爲スコトヲ得(八)准尉ハ聯隊ヲ通シ四名以内トス

0300 6620

臺灣步兵一聯隊編制表

階級	區分	聯隊本部		大隊本部		一中隊		機關銃隊		聯隊(二大隊三中隊)計	
		人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬	人員	乘馬
大佐		1	2							1	2
中佐		1	2							1	2
少佐		1	1	1	1					1	1
大尉		1	1			1				1	1
中尉				1							
少尉						4		4		5	6
准尉											
特務曹長										1	3
曹長		1								1	4
軍曹		3		5		8		9		1	26
伍長				1		8		9		1	26
上等兵						17		17		1	21
一等卒						42		34		1	53
二等卒						81		68		1	100
計		9	6	8	3	155	1	135	1	7	208
一等主計				1							1
二(三)等主計				2							2
計手											6
縫工長		1									1
靴工長		1									1
三等軍醫正		1									1
一等軍醫				1							1
二(三)等軍醫				1							1
看護長				2							6
上等看護卒						2		1			5
銃工長		3									3
計		6	1	7	3	157	1	136	1	7	208
合計		15	7	15	3	157	1	136	1	7	208

考 備

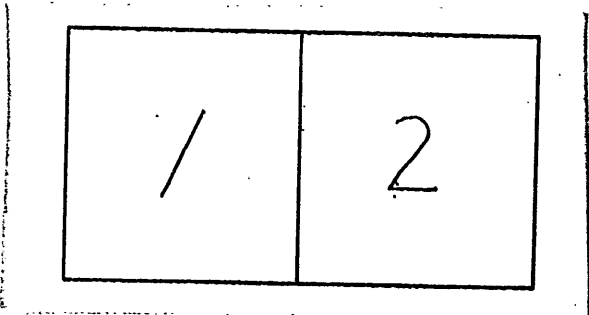

(一)大隊本部軍曹ノ内一ハ武器掛、二ハ書記、三ハ炊事掛ノ分課トス(二)中隊上等兵ノ内五ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手四名、一(二)等卒ノ内銃工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)機關銃隊上等兵ノ内三ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手二名、一(二)等卒ノ内銃工卒少クモ三名、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(四)機關銃隊ノ經理、衛生事務ハ某大隊附主計及軍醫之ヲ擔任ス(五)機關銃隊新設迄各聯隊ニ聯隊附大尉一名、機關銃掛曹長一名及機關銃教育用馬六頭ヲ増加シ又中隊兵卒ノ定員ヲ上等兵十六名、一等卒四十七名、二等卒八十七名トス(六)聯隊本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(七)中隊及機關銃隊軍曹、伍長ノ定員ハ全部ヲ通シ軍曹六十六名、伍長三十九名トス(八)第二年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ區分ニ依ラス特ニ之ヲ一等卒ト爲スコトヲ得(九)准尉ハ聯隊ヲ通シ二十四名以内トス

0302  
 (1) 聯隊本部  
 (2) 中隊上等兵  
 (3) 備考中  
 (4) 銃工  
 (5) 縫工





# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 6 月 29 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

周表

航空第二大隊材料廠編制表					
階級	少佐	中尉	下士	計	一(二)等主計
人員	一	三	四	八	二
乘馬	一				

航空第二大隊編制表																									
階級	大(中)	少	中	大	少	准	特務	曹	軍	伍	上等	一等	二等	看	上等	上等	計	一(二)等主計	計	合					
人員	隊長	佐	尉	尉	尉	尉	長	長	曹	長	兵	長	長	長	長	長	長	手	手	九	二〇	四	一四〇	三〇〇	四
本部																									
飛行機一中隊				中隊長																					
大隊(飛行機一中隊)計																									

備考  
 (一)本部軍曹ノ内ニハ書記、一ハ炊事掛ノ分課トス(二)本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(三)中隊上等兵ノ内三ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手二名、木工、鍛工卒少クモ各三名、發動機工、飛行機工卒少クモ各六名、電機工卒少クモ二名、寫真工、銃工卒少クモ各一名、一(二)等卒ノ内縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(四)中隊軍曹、伍長ノ定員ハ二中隊ヲ合シ軍曹十六名、伍長八名トス(五)第二(三)年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ区分ニ依ラス特ニ之ヲ一等卒ト爲スコトヲ得(六)本表定員ノ外航空機ニ關スル諸般ノ研究並操縦又ハ偵察將校、下士ノ學術教育ニ任スル爲各兵科尉官十二名以内及氣象觀測、機關取扱等ノ爲技師、技手若干名ヲ置クコトヲ得(七)准尉ハ大隊ヲ通シ二名以内トス

附表第十九號其二

0305  
 旧航空第一大隊  
 一、本部主計  
 二、飛行機一中隊  
 三、飛行機二中队  
 四、飛行機三中队  
 五、飛行機四中队  
 六、飛行機五中队  
 七、飛行機六中队  
 八、飛行機七中队  
 九、飛行機八中队  
 十、飛行機九中队  
 十一、飛行機十中队  
 十二、飛行機十一中队  
 十三、飛行機十二中队  
 十四、飛行機十三中队  
 十五、飛行機十四中队  
 十六、飛行機十五中队  
 十七、飛行機十六中队  
 十八、飛行機十七中队  
 十九、飛行機十八中队  
 二十、飛行機十九中队  
 二十一、飛行機二十中队

周表

考 備	合 計	上 等 工 長	上 等 看 護 卒	看 護 長	二 (三) 等 軍 醫	一 等 軍 醫	階 級 分	
							人 員	乘 馬
(一)本部軍曹ノ内二ハ書記、一ハ炊事掛ノ分課トス(二)本部書記ノ内一名ハ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ得(三)中隊上等兵ノ内三ハ伍長勤務トシ兵卒ノ内喇叭手二名、木工、鍛工卒少クモ各三名、發動機工、飛行機工卒少クモ各六名、電機工卒少クモ二名、寫真工、銃工卒少クモ各一名、一(二)等卒ノ内縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(四)中隊軍曹、伍長ノ定員ハ二中隊ヲ合シ軍曹十六名、伍長八名トス(五)第二(三)年兵中學術優秀ナル二等卒ハ本表ノ區分ニ依ラス特ニ之ヲ一 等卒ト爲スコトヲ得(六)本表定員ノ外航空機ニ關スル諸般ノ研究並ニ操縦又ハ偵察將校、下士ノ學術教育ニ任スル爲各兵科尉官十二名以内及氣象觀測、機關取扱等ノ爲技師、技手若干名ヲ置クコトヲ得(七)准尉ハ大隊ヲ通シ二名以内トス	二〇	九	一	一	一	一	一	一
	四							
	一四〇	一	一					
	三〇〇	一	一	一	一	一	一	一
	四							

考 備	合 計	上 等 工 長	計 手	一 (二) 等 主 計	計	下 士	中 (少) 尉	少 佐 廠 長	階 級 分	
									人 員	乘 馬
(一)本表ノ外所要ニ應シ技師、技手若干名ヲ置クコトヲ得(二)一(二)等主計ケ一ハ航空大隊附主計ノ兼勤トス	一〇	一	一	一	八	四	一	一	一	一
	一									
	一									
	一									



砲兵工廠編制表

考 備	東 部										大 部				阪					
	小銃製造所	砲具製造所	精器製造所	銃包製造所	火具製造所	板橋火藥製造所	目黒火藥製造所	岩鼻火藥製造所	熱田兵器製造所	朝鮮兵器製造所	火砲製造所	彈丸製造所	火具製造所	鐵材製造所	器材製造所	藥莖製造所	宇治火藥製造所	小倉兵器製造所	名古屋兵器製造所	
<p>(一) 提理ノ内一名ハ中將又當分ノ内各工廠ヲ通シ大佐タル課長、所長ノ内二名ハ少將ヲ以テ充ツルコトヲ得(二) 廠員ニハ必要ニ應シ技師ヲ混用スルコトヲ得又廠員大尉ハ中尉ヲ以テ充ツルコトヲ得(三) 技師ハ高等官五等以下トス但シ各工廠ヲ通シ五名ヲ高等官三(四) 等ト爲スコトヲ得(四) 課長、所長ハ兩者ヲ通シ廠員ハ廠員内ニテ本表階級ノ定員内ニ於テ各工廠ヲ通シ其ノ階級ヲ融通スルコトヲ得(五) 提理ハ必要ニ應シ製造所ニ主計及軍醫ヲ分屬セシムルコトヲ得(六) 本表ノ外朝鮮兵器製造所建設業務ニ從事セシムル爲當分ノ内定員外トシテ大尉二名、一等主計、一等軍醫各一名、技師一名、准士官二名、下士判任文官十八名ヲ東京砲兵工廠ニ配屬スルコトヲ得</p>	<p>提理 少將 一</p>										<p>提理 少將 一</p>				<p>提理 少將 一</p>					
	<p>二</p>										<p>二</p>				<p>二</p>					
	<p>會計課 技術課 作業課 庶務課</p>										<p>會計課 技術課 作業課 庶務課</p>				<p>會計課 技術課 作業課 庶務課</p>					
	<p>長 大(中)佐 六 四</p>										<p>長 大(中)佐 一 一 一 一</p>				<p>長 大(中)佐 五 四</p>					
	<p>一〇</p>										<p>一 一 一 一</p>				<p>九</p>					
	<p>技師 廠員 少佐 大尉 二 二</p>										<p>技師 廠員 少佐 大尉 一 二 二</p>				<p>技師 廠員 少佐 大尉 二 二 二</p>					
<p>准士官 四〇</p>										<p>准士官 三三六</p>				<p>准士官 三四</p>						
<p>下任文官 三三六</p>										<p>下任文官 二六七</p>				<p>下任文官 二六七</p>						
<p>内 八</p>										<p>内 六</p>				<p>内 六</p>						

9080



兵科トス但シ少佐 主トシテ通信ノ数 十二名、鞍工、縫 名ハ看護卒(内二 ス又必要ニ應シ其	四二		一三	一五	五	二	二	五	官判
	二五九		二五九						兵卒
	六六二		二六二	四〇〇					校馬

0308

従来教育部中ノ戰術科馬術科ヲ廢シ教育部ト爲シ陸軍部ノ  
 廢シテ更ニ一併ノ増設シニ由リテ教育隊ト爲シ陸軍部ノ戰術  
 科及馬術科ト爲シ陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ  
 少佐ニ大尉一員及十少佐ノ増トナシ  
 下條増設ノ由リ陸軍部ニ 陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ  
 陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ陸軍部ト爲シ



高野

獨立守備隊編成替及交代要領中左ノ通改正ス  
 附表第二階級欄中 中 (少) 尉ヲ 中 (少) (准) 尉ニ改メ備考ニ左  
 ノ一項ヲ加フ

(七) 准尉ハ大隊ヲ通シ四名以内トス

陸  
軍



支那駐屯軍編成及交代要領中左ノ通改正ス

附表第一號備考(三中「通譯官」ノ下ニ「通譯生及通譯」ヲ加フ

附表第一號屬表其二ヲ別表ノ如ク改ム

附表第二號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

中	尉	尉	尉
少	尉	尉	尉
准	尉	尉	尉
三			
九			
			一

(三) 准尉ハ歩兵隊ヲ通シ二名以内トス

附表第三號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

陸

軍



要員表		階級	人員	乘馬
考 備  (一)軍曹(伍長)ノ内若干名ハ上等兵ヲ以テ補フコトヲ得(二)下士ノ内三ハ無線電信要員ニシテ内一ハ機關ヲ取扱ヒ得ルモノトス(三)兵卒ノ内二ハ電信通信術修業者、二ハ電信建築術修業者、六ハ無線電信通信術修業者、五ハ無線電信建築術修業者ニシテ電信通信術修業者中電機工卒少クモ二ヲ含有シ各通信術修業者中約半數ハ歐文ヲ取扱ヒ得ルモノトス(四)本表ノ外必要ニ應ジ所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得	計		二	
	射官	一等	一	一
	隊長	四	一	一
	通信員	三	一	一
	兵卒	三	八	一
	計		六〇	二

附表第一號屬表共二

陸軍部外務省  
 表一號屬表共二

吾尉友  
 勇友  
 給  
 三

0312 0313

電信通信員要員表

備考	階級					人員	乗馬	
	計	工兵卒	工兵軍曹(伍長)	工兵曹長	工(兵)中(少)尉			
(一)軍曹(伍長)ノ内若干名ハ上等兵ヲ以テ補フコトヲ得(二)下士ノ内三ハ無線電信要員ニシテ内一ハ機關ヲ取扱ヒ得ルモノトス(三)兵卒ノ内二ハ電信通信術修業者(二)ハ電信建築術修業者(六)ハ無線電信通信術修業者(五)ハ無線電信建築術修業者ニシテ電信通信術修業者中電機工卒少クモ二ヲ含有シ各通信術修業者中約半數ハ歐文ヲ取扱ヒ得ルモノトス(四)本表ノ外必要ニ應ジ所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得	計	工兵卒	工兵軍曹(伍長)	工兵曹長	工(兵)中(少)尉	通信長		
	セ二	六〇	八	一	一	一		

附表第一號屬表其二

從軍電信員要員表

三考  
三考  
三考



主査課  
附録



陸軍省

密受第一二八號

八月十日



教令第 二八 號

軍事部第二八號

陸軍平時編制中改正ノ件照會

大正六年八月十一日 教育總監 一 戸

兵

陸軍大臣 大 島 健 一 殿

陸軍平時編制中當部編制表備考(一)ヲ左記ノ通陸軍騎兵實施學校編

制表ヲ別表ノ通陸軍砲工學校及陸軍中央幼年學校編制表中別紙ノ

通各改正致度異存無之候ハ、連署可仰 允裁及照會候也

左 記

(一)第一、第二課長及課員七名ハ參謀ト爲スコトヲ得

陸 軍



考 備	計		
(一)本部附軍医ヲシテ教官ヲ兼勤セシム (二)陸軍教授ノ内一名ハ高等官三等若ハ四等ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得 (三)兵卒七名ハ各隊ヨリ分遣ス (四)生徒ノ員數ハ増減スルコトヲ得 (五)生徒監主事大尉ナルトキハ乘馬セシメス (六)本校定員外當分ノ内馬術教官中尉ハ乘馬一及軍医看護長各一名ヲ増加スルコトヲ得	陸軍教授 三六	乘馬 五	七二〇

二陸軍中央幼年學校ニ就キテ

教官	教官	大佐	中佐	陸軍	佐	佐	乘馬
二	二	二	二	二	二	二	二
八	八	八	八	八	八	八	八

朱書ハ改正ノ部  
黒書ハ現制

一陸軍砲工學校ニ就キテ  
平時編制改正ニ關スル事項



教育總監部編制表中備考ノ一部改正理由

現在課員六名ト同一職務ニ服シアル課員一名參謀ニアラサルヲ以テ之ヲモ參謀ト爲スコトヲ得セシメントスルニ在リ

陸軍騎兵實施學校編制改正理由

陸軍騎兵實施學校編制表中學生ノ數ハ團隊數ノ増加並從來ノ經驗ニ基キ若干ノ増減ヲ必要トシ又學生教育ニ便スル爲厩舎部ヲ廢止シ教導中隊ヲ擴張スルノ必要有之候ニ付同校編制ヲ別紙ノ通改正相成度

陸軍中央幼年學校編制改正理由

皇子殿下ノ始メ御在校、  
 各宮殿下馬術御教育、爲馬術教官中尉一  
 (乘馬一)ヲ増加相成度



八月十日

陸軍第七〇八號第一

陸軍平時編制、獨立守備隊編成替及交代要領、支那駐屯軍編成及交代要領、北支那派遣步兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領、中改正件、

陸軍大臣大島建一

陸軍平時編制、獨立守備隊編成替及交代要領、支那駐屯軍編成及交代要領、北支那派遣步兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領、中改正件、  
無之候、以連署可仰、  
允裁理由書相

陸軍第七〇八號第一

及紙

0321

添及照會候也

(小林又七印行)

理由書

- 一、各隊ニ准尉ヲ設ケタルハ准尉制度制定ニ伴ヒ之カ編<sup>配</sup>制<sup>定</sup>員ヲ規定スルノ必要ヲ認メタルニ由ル
- 二、歩兵聯隊ニ機關銃隊ヲ新設セタルハ戰時ノ要求ニ基キ聯隊内ニ該隊ノ常設ヲ必要ト認メタルニ由ル
- 三、山砲兵大隊ヲ聯隊ニ改編シタルハ山砲兵隊得員ノ増加ヲ必要ト認メタルニ由ル
- 四、新ニ航空第二大隊ヲ設置シタルハ航空機ノ價値及用途著シク増大シ之カ擴張ノ必要ヲ認メタルニ由ル



小林又七印行

陸軍



(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ五名以内トス

附表第四號其二 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改ム

中	少	准
尉	尉	尉
一	一	一
三	三	三
一	一	一
五	五	五
五	五	五
三	三	三
三	三	三

又大隊本部人員ノ欄大工概一ヲ削リ計、合計ノ四ヲ三ニ改メ聯隊本部ノ欄

曹長	一
軍曹	一

ニ計一三ヲ一四ニ、合計三三ヲ三五ニ改メ且備考ニ左ノ一項ヲ加フ

曹長	三
軍曹	三

附表第四號其三ヲ別表ノ如ク改ム

附表第五號ヲ別表ノ如ク改ム

附表第六號中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

中	少	准
尉	尉	尉
三	三	三
三	三	三
四	四	四
四	四	四
一	一	一
五	五	五
一	一	一
五	五	五

(九) 准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス

附表第七號其一 中尉、少尉ノ行ヲ備考(八)ヲ左ノ如ク改メ且備考(九)ヲ加フ

左記

中	少	准
尉	尉	尉
一	一	一
一	一	一
七	七	七
七	七	七
二	二	二
二	二	二

(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ五名以内トス  
 附表第四號其二中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改ム

准	少	中
尉	尉	尉
		一
		三
		一
		一
		五
		五
		一
		一

(十) 准尉ハ聯隊ヲ通シ十一名以内トス

附表第四號其三ヲ別表ノ如ク改ム

附表第五號ヲ別表ノ如ク改ム

附表第六號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

准	少	中
尉	尉	尉
		三
		三
		四
		四
		一
		一
		一
		一

(九) 准尉ハ大隊ヲ通シ三名以内トス

附表第七號其一中 中尉、少尉ノ行ヲ備考(ハ)ヲ左ノ如ク改メ且備考(九)

ヲ加フ

准	少	中
尉	尉	尉
		一
		一
		七
		七
		一
		二
		二
		二

左記













改ム

ヲ	參謀
一	二
參謀	參謀
一	二
二	一
二	二

改メ計ノ行ニ五ヲ三六ニ一六ヲ一八ニ

附則

步兵聯隊、野砲兵第十八聯隊、山砲兵聯隊及航空第一大隊ノ改正  
 步兵聯隊機関銃隊、航空第二大隊ノ新設及野砲兵第十八聯隊、山砲  
 兵大隊、陸軍騎兵實施學校編制改正要領ニ依リ實施スルモイハ  
 實施、自レノ別ニ定ムル所ニ據ル



0332

●  
河

港



(51)

河 港

○伏木護岸規程

(沿革) 明治四三年縣令三四號改正

伏木護岸規程左ノ通り

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

伏 木 護 岸 規 程

第一條 伏木護岸ト稱スルハ庄川筋射水郡伏木町左岸玉川落合ヨリ海ニ至ル護岸ヲ謂フ

第二條 護岸ハ船客ノ昇降又ハ荷役ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第三條 護岸ハ食物ノ置場ニ供スルコトヲ得ス

第四條 船舶ヲ護岸ニ緊留シタルトキハ逗留ナク船客ノ昇降又ハ荷役ヲ終了スヘシ

前項ノ業務ヲ終了シタル船舶ハ護岸ニ緊留スルコトヲ得ス

第五條 第二條ノ目的ノ爲護岸ニ緊留スル船舶ノ外如何ナル船舶ト雖護岸ニ接近シテ碇泊スルコト

ヲ得ス

(明治四三年五月  
縣令第三十二號)

但シ官公署ノ船舶ニシテ公務上ノ必要ニ依リ碇泊スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 船舶緊留ノ目的ヲ以テ隨岸ニ設備サ爲スコトヲ得ス

第七條 隨岸ヲ毀損シタル者ハ知事ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ修築スヘシ

第八條 第二條ニ依リ使用シタル場所ハ使用者ニ於テ使用後清潔ニ掃除スヘシ

第九條 前二條ヲ履行セザルトキハ知事自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ハ義務者サントテ負擔セシム

第十條 第三條乃至第六條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

### ○伏木河口浚渫作業規程

(大正元年九月  
廳達第三號)  
内務部

伏木河口浚渫作業規程左ノ通相定ム

伏木河口浚渫作業規程

第一條 内務省ヨリ借入ニ係ル浚渫船舶ヲ使用シ轉直營ヲ以テ伏木河口浚渫作業ヲ爲ス場合ハ本規程ニ依ル

第二條 浚渫作業ハ伏木河口浚渫作業主任之ヲ担任ス但シ地域ノ闊スル工區主任ヲシテ担任セシムルコトアルヘシ

第三條 主任ハ浚渫作業ヲ統轄シ其作業ニ從事スル船長、機関士其他船員以下ヲ指揮監督シ豫算ノ

0330

0330

(53)

船中範圍内ニ於テ執行スヘシ

第四條 主任ハ船長、機関士其他ノ船員ニ作業船舶其他附屬器械其ノ取扱ヲ嚴重ナラシムヘシ

第五條 主任ハ前條物件保管ノ責ニ任ス

第六條 船長、機関士ハ主任ノ命ヲ受テ作業ニ従事シ且ツ所屬船員及作業人夫ヲ指揮監督スヘシ

第七條 作業場ニハ作業日誌簿及宿直簿ヲ備付テ作業日誌簿ハ船長、機関士ニ於テ左記ノ事項ヲ記

載シ毎日作業終了後又宿直簿ハ宿直員ニ於テ當夜ノ事項ヲ記載シ其ノ翌日主任ノ檢閲ヲ受クヘシ

一、天候候時定シテ作業ノ進捗ハ如何ナルヲ記シ且ツ船中ノ異常ノ事ヲ記シテ報告スルベシ

二、作業時間開始時及終了時ノ人員數ヲ記シ且ツ作業ノ進捗ハ如何ナルヲ記シテ報告スルベシ

三、作業人夫ノ氏名、年齢、性別、職業、技能、経験、健康状態、その他ノ事項ヲ記シテ報告スルベシ

四、拾得品使用品、廃棄品、その他ノ事項ヲ記シテ報告スルベシ

五、作業成績、その他ノ事項ヲ記シテ報告スルベシ

六、主任ノ指定ニ違ヒサル下キハ其事由ヲ附記スヘシ

六、其他必要ナリト認ムル事項ニ其理由ヲ附シテ

第八條 主任ハ毎月五日迄ニ前月分ノ成績表ヲ知事ニ提出スヘシ

第九條 浚渫土砂ヲ放擲場所ハ主任ニ於テ指定スルモノトス

第十條 曳船ニシテ浚渫土砂放擲ノ場合ハ土運船ニ所定ノ土量ヲ積載スルニアラサレハ運行スルコトヲ得ス

第十一條 主任ハ作業ニ關シ人夫ノ雇入レサナスニハ適當ノモノヲ選擇シ出役申込書ヲ又人夫供給者ヲ定ムルヲ便宜ナリト認ムルトキハ供給者ヲ選擇シ供給承諾書ヲ提出セシムヘシ

第十二條 作業人夫ノ定歩及賃金ハ左ノ通りトス

定歩 歩掛 賃金

一、男 一人一日 (作業時間) 三人歩掛

二、女 一人一日 (作業時間) 二人歩掛

三、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 十圓

四、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 八圓

五、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 六圓

六、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 四圓

七、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 二圓

八、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

九、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 五圓

十、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 三圓

十一、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

十二、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 五圓

十三、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 三圓

十四、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

十五、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 五圓

十六、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 三圓

十七、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

十八、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 五圓

十九、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 三圓

二十、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

二十一、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 五圓

二十二、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 三圓

二十三、賃金 日給 一人一日 (作業時間) 一圓

前項作業を開始終了の時間ハ主任之シテ定メ知事ニ報告スヘシ  
第十四條 二月二日及三日大節ノ外、作業ヲ休止セザルモノトス

但暴風雨其他止メ不得ナル事項ハ在リタルトキハ此ノ限リテ之ヲ行ハシ得ルモ、前項品ノ積入ト報告ス  
前項但書ノ場合ニテハ主任ハ於テ即時知事ニ報告スヘシ

第十五條 作業ノ定時間ニ滿テサルガハ又ハ定時間外ニ涉リタルトキハ出役時間ノ割合ニ依リ作業人  
夫ノ定歩増減スルモノトス但シ作業力一時間ニ滿テサルトキハ出役歩合ヲ附セス

夜間ノ作業ニ對シテ前項歩合ニ倍トス  
第十六條 作業人夫自己ノ都合ヨリ作業時間内ニ退役シタルトキハ亦前條ニ同ク計算ス

第十七條 船長、機関士其他ノ船員及作業人夫ハ作業定時間二十分前ニ現場ニ參集シ作業ノ準備ヲ  
サスルモノトス

第十八條 作業ニ從事スルモノニ對シテ左ノ行爲ヲ禁止ス  
一、作業時間外及作業時間中ノ飲酒

二、喧嘩口論等粗暴ノ所爲  
三、一、二、三ノ項中ノ一ニ違反スルモノハ  
第十九條 作業ノ開始終了ハ船長又ハ機関士ニ於テ汽笛ヲ以テ報スルモノトス

第二十條 主任ハ出勤簿ヲ備付テ船長、機関士其他ノ船員ニ出勤ノ際捺印セシムヘシ

第二十一條 作業船ハ「富山縣」ノ船旗ヲ掲クヘシ

第二十二條 主任ハ船員ニ作業船ノ宿直ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 宿直船員ニハ左ノ助料ヲ給ス、

- 一、船長、機関士 一夜 十二錢

二、其他ノ船員 一夜 十錢

第二十四條 主任ハ作業ニ従事スル者ノ心得フべき左記事項ヲ作業船内便宜ノ場所ニ掲示スヘシ

- 一、作業時間及休憩時間

二、休業日

三、第三十七條乃至第十九條ノ事項

四、其他主任ニ於テ必要ナリト認ムル事項

第二十五條 主任ハ金額指圖未滿ノ器機器具ノ修繕新調又ハ金額五圓未滿ノ消耗品ノ購入ヲ專行ス

第二十六條 主任ハ此ノ場合ニ於テハ附后報告スヘシ

第二十七條 主任ハ給料請求書及作業人夫ノ賃金請求書ニハ主任ニ於テ調査認印スヘシ

第二十七條 主任は毎年六月、十二月ノ二回伏木河口深淺測定ヲナシ知事ニ報告スヘシ

第二十八條 主任ハ毎年四月十日迄ニ前年度ノ船舶橋一切ヲ添へ作業成績ニ付知事ニ報告スル

附 則

第二十九條 本規程ハ伏木河口外ニ於テ浚渫作業ヲ爲ス場合ニモ適用ス

○伏木棧橋繫船規程

(大正二年二月 縣令第八號)

伏木棧橋繫船規程ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

伏木棧橋繫船規程

- 第一條 伏木河港棧橋ニ繫留セントスル船舶ハ伏木警察分署水上派出所ニ口頭又ハ書面ヲ以テ申出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 棧橋申繫船場所ハ特ニ指定スルコトアルヘシ
- 第三條 繫船ノ許可ヲ受ケタル後ト雖必要アルトキハ該場所ノ變更ヲ命ジ若ハ二時棧橋ヨリ離隔ヲ命スルコトアルヘシ

0340

0340

伏木河港  
上屋、軌道  
使用料徴収  
手續

(58)

第四條 繫船ノ爲極端毀損ノ虞アルトキハ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第五條 故意又ハ過失ニ因リテ棧橋及其ノ附屬物ヲ毀損シタルトキハ修繕又ハ新築ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第六條 荷役ヲ終リタル船舶ハ速ニ棧橋ヨリ離隔スヘシ

第七條 第一條第四條及第六條ニ違反シ又ハ第三條ノ命ニ従ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處スルコトアルヘシ

### 伏木河港縣設棧橋、上屋、軌道 使用料徴収手續

(大正二年四月  
縣令第三十號)

伏木河港縣設棧橋、上屋、軌道使用料徴収手續左ノ如キニ定ム

前項ノ棧橋ニ付テハ本月十一日ヨリ實施シ上屋、軌道ニ付テハ追テ之ヲ定ム

伏木河港縣設棧橋、上屋、軌道使用料徴収手續

第一條 伏木河港縣設棧橋、上屋又ハ軌道ヲ使用スル者ハ本手續ヲ依リ使用料ヲ納付スルモノトス

第二條 伏木河港縣設棧橋第一條ニ依リ許可ヲ受ケ棧橋ニ繫船シタル船舶ノ船長ハ船主若ハ其ノ代理者ハ繫船ト同時ニ主任吏員ヨリ發スル徴収箋(第一號書式)ニ依リ使用料ヲ納付スルコトアルヘシ



- 第三條 棧橋ニ繫船セザル船舶ニシテ豫定時間内ニ棧橋ヲ離隔スルコト能ハサルトキハ其ノ旨主務吏員ニ申付シ同時ニ徵收簿ニ依リ使用料ヲ追納スヘシ
- 第四條 定期航海汽船ノ棧橋使用料徵收方法ハ船長船主ノ求メテ別ニ協約ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 繫船中ノ船舶ニシテ一時棧橋ヨリ離隔ヲ命セラレタル場合ハ其ノ離隔時間ハ繫船時間ニ算入セズ
- 第六條 上屋ヲ使用セムトスル者ハ願書(第二號書式)ニ貨物ノ種類、所要噸數、使用日時及使用料金額ヲ記載シ主務吏員ニ提出シ同時ニ使用料ヲ納付シ許可書(第三號書式)ヲ受クヘシ
- 第七條 上屋使用ノ許可ヲ受ケタル者ト雖許可書ニ記載シタル使用ノ始期ヨリ二十四時間以内ニ其ノ使用ヲ爲サハルトキハ其ノ全部又ハ使用ヲ爲サル一部ノ使用權ハ消滅スルコトス
- 第八條 軌道ヲ使用セントスル者ハ願書(第三號書式)ニ貨物ノ種類使用ノ時間及使用料金額ヲ記入シ主務吏員ニ提出シ同時ニ使用料ヲ納付シ許可書(第三號書式)ヲ受クヘシ
- 第九條 軌道ノ使用許可ヲ受ケタル者ト雖願書ニ記載シタル使用ノ始期ヨリ二十四時間以内ニ其ノ使用ヲ爲サハルトキハ其ノ使用權ハ消滅スルコトス

第十條 公益上又ハ其ノ他ノ必要アル場合ニハ上屋又ハ軌道ノ使用許可ヲ取消シ又ハ使用ヲ中止ス

第十一條 上屋又ハ軌道ヲ引續キ使用セムトスル者ハ更ニ第六條又ハ第八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 第六條第八條ノ用紙ハ主務吏員ヨリ交付スヘシ

第十三條 棧橋、土屋又ハ軌道ノ使用ニ關シテハ主務吏員之ヲ指揮スルコトアルヘシ

第十四條 主務吏員ニ於テ第六條ノ上屋使用願第八條ノ軌道使用願ヲ受理シ許可スル場合又ハ伏木

棧橋繫船規程第三條ニ依リ許可ヲ受ケ棧橋ニ繫船シタル場合ハ直ニ使用料ヲ納付セシメ領收書

(第十號書式)又ハ許可書(第二、第三號)ヲ各交付シ上屋ハ其使用許可區域ヲ指定スヘシ

(丙) 前項ノ願肩書ハ主務吏員之ヲ保管スヘシ

第十五條 主務吏員使用料ヲ徵收スル場合ハ現金出納簿(第四號書式)ヲ備ヘ整理シ收納シタル使

用料ハ拂込書(第五號書式)ヲ添ヘ翌日午前ニ金庫ニ拂込ムヘシ

主務吏員ハ毎月收納報告書(第六號書式)ヲ作り報告書(第一、第二、第三號書式)ヲ添ヘ翌月

五日迄告知事項ヲ提出スヘシ

乙

丙

第一號符式

伏木港接投使用料徴収票 船名 登壇船 登船時間 船長又船主 何丸 何時刻又自何時至何人 何 某		甲 金、 但シ緊船料		號 右町時納付シ 者取扱 者印扱		伏木港接投使用料徴収報告書 船名 登壇船 登船時間 船長又船主 乙 一金 但シ緊船料		號 右報告 候也 者取扱 者印扱		伏木港接投使用料徴収証 船名 登壇船 登船時間 船長又船主 丙 一金 但シ緊船料		號 右何年月何日領取候也 者印扱	
---	--	------------------	--	---------------------------	--	--	--	---------------------------	--	--	--	------------------------	--

0343 (10)

第二號表式

甲		乙		丙	
右之邊ノ邊ニ於テ使用仕度允當ナルモノニ於テ係 管可致シテ所定ノ使用料相湊ニ由テ知照 年月日 宛 使用人 何 某		右報告候也 取致 或 者印 或 年月日 宛 使用人 何 某		右之邊ノ邊ニ於テ使用料額入済ニ付使用許可致也 年月日 宛 使用人 何 某	
何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時 何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時	何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時	何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時	何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時	何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時	何年何月何日午前何時 何年何月何日午後何時
使用日 時 使用料 貨物種類	使用日 時 使用料 貨物種類	使用日 時 使用料 貨物種類	使用日 時 使用料 貨物種類	使用日 時 使用料 貨物種類	使用日 時 使用料 貨物種類
上屋使用願 取致者 取 上屋使用許可料額入報告書		上屋使用願 取致者 取 上屋使用許可料額入報告書		上屋使用許可証 上屋使用許可料額入済ニ付使用許可致也	

(2) 0344

第三様式

軌道使用額 取扱者 取扱者 ⑩		使用時間 使用料 貨物ノ種類		自何月何日何時 至何月何日何時 迄何則何拾錢 何々		甲 號 右ノ途ニ使用仕度仍テ所定ノ使用料相添 ハ此等額願候也		年 月 日 使用人 何 宛 某		軌道使用許料金額ノ報告書		使用時間 使用料 貨物ノ種類		乙 號 右報告候也 取扱者 某		何年何月何日納了		軌道使用許可証		使用時間 使用料 貨物ノ種類		丙 號 右ノ途ニ使用料額入資ニ付使用許可候也 年 月 日 使用人 何 取扱者 何 某	
-----------------	--	----------------	--	---------------------------	--	--------------------------------------	--	-----------------	--	--------------	--	----------------	--	--------------------	--	----------	--	---------	--	----------------	--	--	--

(19)

0345

0330



第五號査式

辨 送 寄 領 収 替 通 知 番

辨何號	何年度	納人職氏名	河川収入權檢定用科	同	上
一令何程			右拂込候也		
年月日			年月日領收印經金庫取替印		
領收印			領收印		
辨何號	何年度	納人職氏名	河川収入權檢定用科	同	上
一令何程			右領收候也		
年月日			年月日		
領收印			領收印		
辨何號	何年度	納人職氏名	河川収入權檢定用科	同	上
一令何程			右吸入候三付通知候也		
年月日			年月日		
領收印			領收印		

8530 0347 (90)





0349

0320

(79)

# ○伏木河港上屋、軌道、棧橋

## 使用料額

(大正三年四月  
告示第六十六號)

伏木河港上屋、軌道、棧橋使用料額、參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ經テ左ノ通相定ム

伏木河港上屋、軌道、棧橋使用料

上屋使用料 二十四時間以内 金三錢  
二十四時間以上 金六錢  
軌道使用料 二十四時間以内 金六十錢

棧橋使用料 (繫船料)

- (イ) 登陸噸數 百噸未満 繫船時間三時間毎ニ 金五拾錢
- (ロ) 登陸噸數 百噸以上千噸未満 同 上 金八拾錢
- (ハ) 登陸噸數 千噸以上 同 上 金壹圓

但シ石敷船六十石ヲ以テ一噸ト計算ス

# ○棧橋上屋、軌道使用料ノ徴收

○事務委任

(大正二年四月)  
告示第六十五號

府令第百十號に依り左記ノ事務ハ本縣對水郡伏木町長ニ委任セリ

一、伏木河港棧橋檢査、上屋、軌道使用料ノ徴収

○伏木河港棧橋使用料免除物件ノ件

(大正二年四月十二日)  
伏木町長ニ通牒

本月九日縣告示第六十五號ニ依り伏木河港棧橋使用料徴収事務ヲ委任相成候處左記ノ船舶ニ對シテ  
ハ使用料ヲ徴収セザル儀云有之候様右ニ依り取扱相成度依命此段及通牒候也

能登町船主

外水ノ官公署ヲ使用スル船舶  
一、五噸若クハ五寸石未満ノ船舶及荷船船ノ類

○出屋使用實施

(大正三年五月)  
縣令第四十一號

大正二年四月縣令第三十號伏木河港棧橋檢査、上屋、軌道使用料徴収手續申上屋ニ付テハ本日ヨリ實

0351

施ス

○軌道使用實施

(大正二年七月  
縣令第四十七號)

大正二年四月富山縣令第三十號伏木河港懸體橋、上屋、軌道使用料徵收手續申軌道ニ付テハ本日  
リ實施ス

○材枋上屋軌道事務委任

(右田市署  
若菜八重)

府縣制施行後依リ左記事務ニ右田市署ニ付テ本縣射部  
本署長ニ委任ス  
一富山縣管運物管理規則依リ伏木河港材枋上屋(軌道)管理  
二富山縣管運物使用料徵收細則及收入簿簿ニ用ヒ規程依リ前年  
場札物件ノ使用料ノ徵收

野砲兵第十八聯隊編制表

階級	職分	聯隊本部		大隊本部		野砲一中隊		野砲二中队		聯隊本部	
		人員	東馬	人員	東馬	人員	東馬	人員	東馬	人員	東馬
大(中)佐	隊長	1	1								
中佐	副隊長	1	1								
少佐	中隊長	1	1								
大尉	副中隊長	1	1								
中尉	副副中隊長	1	1								
少尉	中隊副官	1	1								
准尉	中隊副官	1	1								
特務曹長	特務曹長	1	1								
曹長	曹長	3	3								
軍曹	軍曹	3	3								
伍長	伍長	1	1								
上等兵	上等兵	1	1								
一等卒	一等卒	1	1								
二等卒	二等卒	1	1								
計	計	15	15								
一等主計	主計	1	1								
二等主計	主計	2	2								
計	計	3	3								
砲工長	砲工長	1	1								
一等軍医	軍医	1	1								
二等軍医	軍医	1	1								
看護長	看護長	1	1								
上等看護卒	看護卒	1	1								
一等獸医	獸医	1	1								
二等獸医	獸医	1	1								
上等工長	工長	1	1								
鐵工長	鐵工長	1	1								
木工長	木工長	1	1								
鍛工長	鍛工長	1	1								
蹄鉄工長	蹄鉄工長	1	1								
計	計	4	4								
合計	合計	26	26	3	3	1	1	1	1	3	3

備考  
 (一) 砲隊本部軍曹の内二書記一炊事掛一分隊長(二) 野砲及騎砲兵中隊上等兵内四位長勤務(三) 野砲中隊各等兵内十名  
 (四) 騎砲兵中隊各等兵内十名(五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (八) 騎砲兵中隊各等兵内十名(九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (十一) 騎砲兵中隊各等兵内十名(十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (十四) 騎砲兵中隊各等兵内十名(十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (十七) 騎砲兵中隊各等兵内十名(十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (二十) 騎砲兵中隊各等兵内十名(二十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(二十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (二十三) 騎砲兵中隊各等兵内十名(二十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(二十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (二十六) 騎砲兵中隊各等兵内十名(二十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(二十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (二十九) 騎砲兵中隊各等兵内十名(三十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(三十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (三十二) 騎砲兵中隊各等兵内十名(三十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(三十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (三十五) 騎砲兵中隊各等兵内十名(三十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(三十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (三十八) 騎砲兵中隊各等兵内十名(三十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(四十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (四十一) 騎砲兵中隊各等兵内十名(四十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(四十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (四十四) 騎砲兵中隊各等兵内十名(四十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(四十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (四十七) 騎砲兵中隊各等兵内十名(四十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(四十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (五十) 騎砲兵中隊各等兵内十名(五十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(五十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (五十三) 騎砲兵中隊各等兵内十名(五十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(五十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (五十六) 騎砲兵中隊各等兵内十名(五十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(五十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (五十九) 騎砲兵中隊各等兵内十名(六十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(六十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (六十二) 騎砲兵中隊各等兵内十名(六十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(六十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (六十五) 騎砲兵中隊各等兵内十名(六十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(六十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (六十八) 騎砲兵中隊各等兵内十名(六十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(七十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (七十一) 騎砲兵中隊各等兵内十名(七十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(七十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (七十四) 騎砲兵中隊各等兵内十名(七十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(七十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (七十七) 騎砲兵中隊各等兵内十名(七十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(七十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (八十) 騎砲兵中隊各等兵内十名(八十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(八十二) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (八十三) 騎砲兵中隊各等兵内十名(八十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(八十五) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (八十六) 騎砲兵中隊各等兵内十名(八十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(八十八) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (八十九) 騎砲兵中隊各等兵内十名(九十) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(九十一) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (九十二) 騎砲兵中隊各等兵内十名(九十三) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(九十四) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (九十五) 騎砲兵中隊各等兵内十名(九十六) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(九十七) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長  
 (九十八) 騎砲兵中隊各等兵内十名(九十九) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長(一百) 各中隊二書記一炊事掛一分隊長







獨立守備隊編成替及交代要領中改正事項

附表第二階級欄中

中(少)尉

中(少)准尉

改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

(七)准尉ハ大隊ヲ通シ四名以内トス



電 信 通 信 員 要 員 表							
階 級	區 分	人 員	乘 馬	電 信 通 信 員 要 員			考 備
				工 兵 大 尉	工 兵 中 少 尉	工 兵 曹 長	
		通信長	一	一	一	一	(一) 曹長(長) 内若干名ハ上等兵ヲ以テ補 フコトヲ得(二) 下士由三八無線電信要員ニテ 内ハ機關ヲ取扱ヒ得ルモノトス(三) 兵卒由二八 無線電信術修業者、二ハ電信建築修業者、 有六ハ無線電信術修業者、五ハ無線電信建築 術修業者、三ハ電信建築術修業者、中ハ機工 卒ハモ二ヲ含有シ各通信術修業者、中ハ機工 卒ハ機工ヲ取扱ヒ得ルモノトス(四) 水米ノ外ハ電 應上所需人員ヲ増加スルコトヲ得
		計	七二				二

支那駐屯軍編成及交代要領中改正事項  
 附表第一號備考(三)中「通譯官」ノ下ニ「通譯生及通譯」ヲ加フ  
 附表第一號屬表其ニヲ左ノ如ク改ム  
 附表第一號屬表其二

附表第二號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

中	少	准
尉	尉	尉
三		
九		

(三) 准尉ハ步兵隊ヲ通シニ名以内トス

附表第三號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改メ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

中	少	准
尉	尉	尉
三		
五		

(三) 准尉ハ步兵隊ヲ通シニ名以内トス

北支那派遣歩兵大隊及中支那派遣隊編成交代要領中改正事項

附表第一號中 中尉、少尉ノ行ヲ左ノ如ク改ム備考ニ左ノ一項ヲ加フ

(五) 准尉ハ大隊ヲ通シ五名以内トス

中	大	准
尉	尉	尉
一		
一		
	三	
	三	
	一六	
		一

陸軍省  
第七二三號第二

陸軍平時編制中改定ノ件回答

六八三三

陸軍大臣大島健一殿

陸軍平時編制改定ノ件ニ關シ八月二十日陸軍省第一八一號ヲ以テ照會ノ趣異

存無之候也



陸軍

陸軍省  
第七二三號第二

陸軍省  
第七二三號第二